

京築地区 多職種による研修会

－「住み慣れた地域で療養生活を送る選択」できる
在宅療養の基盤づくりのために－

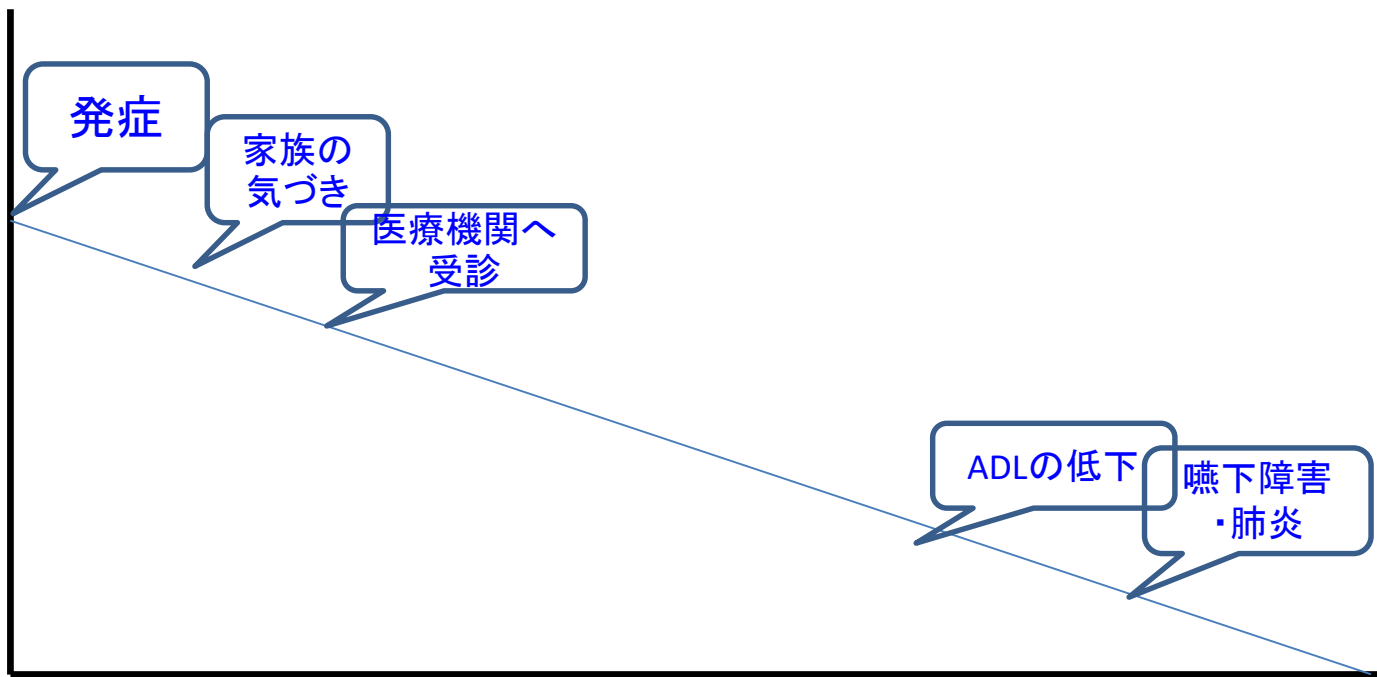


2019. 1.11

福岡県立大学 看護学部 ヘルスプロモーション看護学系
尾形由起子

疾患の軌跡

- 認知症・老衰・脳血管疾患後遺症 3000名



時間



死亡

機能が低下した状態が長く続き、ゆっくりと徐々に機能が低下していく

Aさんのお宅

被介護者

脳梗塞
左半身麻痺
要介護度5
車イス
サービス

嫁に気を
使う

家がいい

呼んだら
すぐに来て
ほしい

何でも言っ
たことをして
ほしい

骨折後
立位保持困難
オムツ排泄となる

入浴・ディサービス

ショートステイ
ディサービス(入浴)

経過

半年間入院

息子
3ヶ月間

数日間
施設入所

母の自宅で
介護

入院

自宅

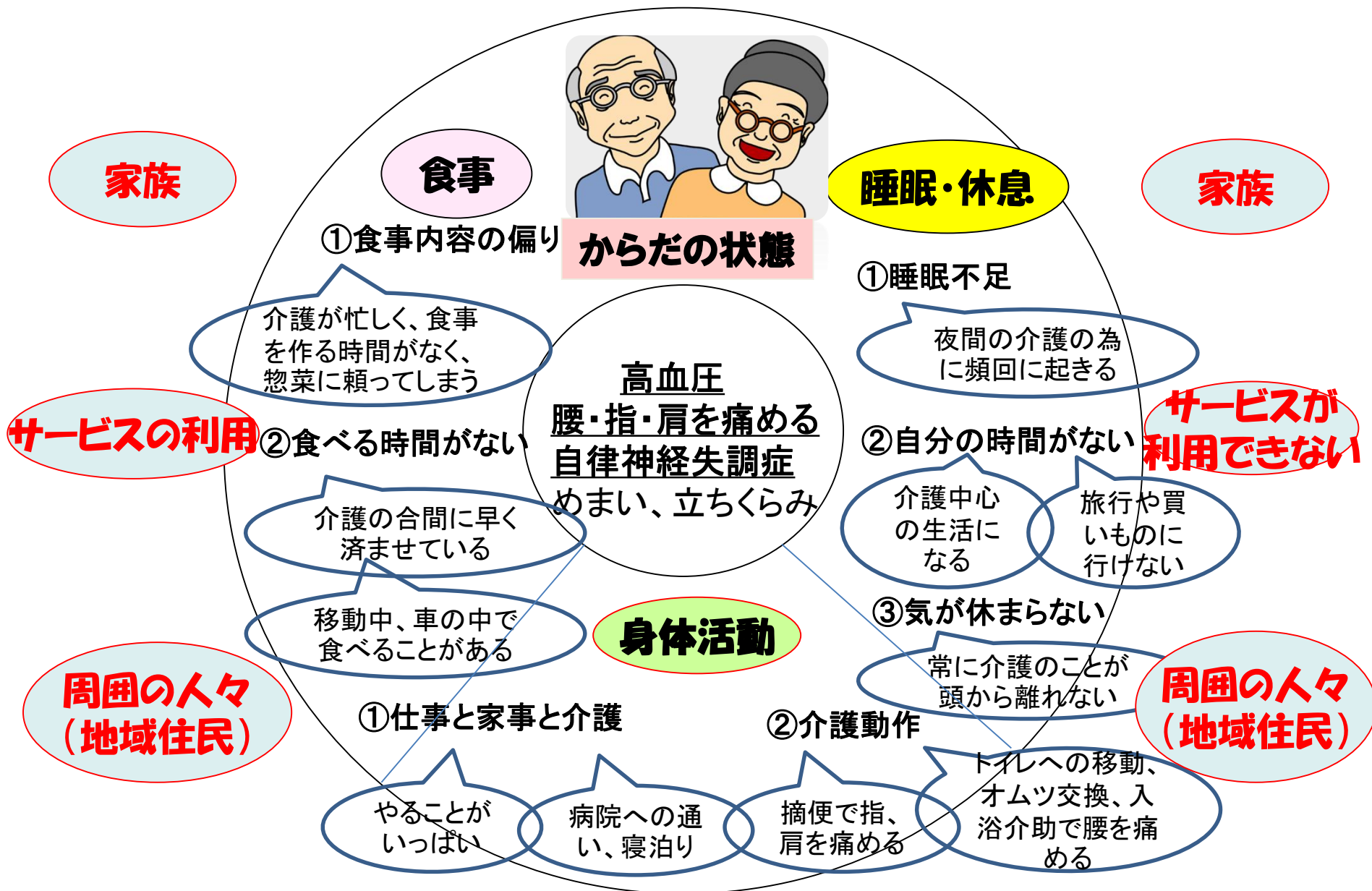
介護者

長男とし
て自分
が看る

介護負担感
強まる

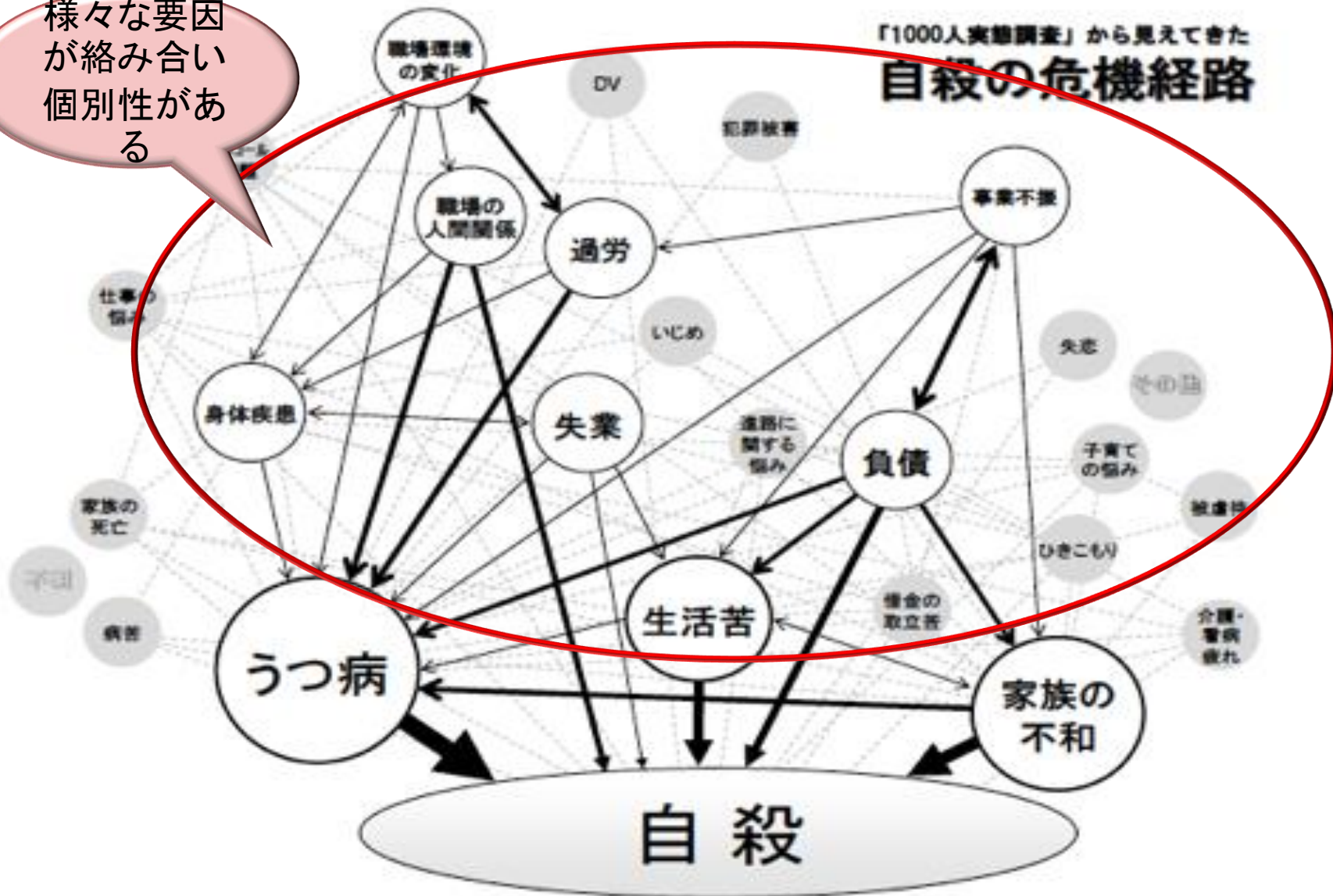
頑張って
頑張って
介護を

介護者の健康に関わる要因



自殺問題の事例を通して

様々な要因
が絡み合い
個別性がある



(ウ)切れ目のない在宅医療と在宅介護 の提供体制の構築促進

キーパーソンとなるケアマネジャーさんへの支援

○阻害要因(医療との連携)を除去する

- ・医療的な知識がないことに引け目。
- ・面談時間調整の困難さ。
- ・主治医への話しかけの困難さ。
- ・薬剤師、歯科医師サービス内容知識不足。
- ・居宅療養管理指導が区分支給限度額管理とならない。

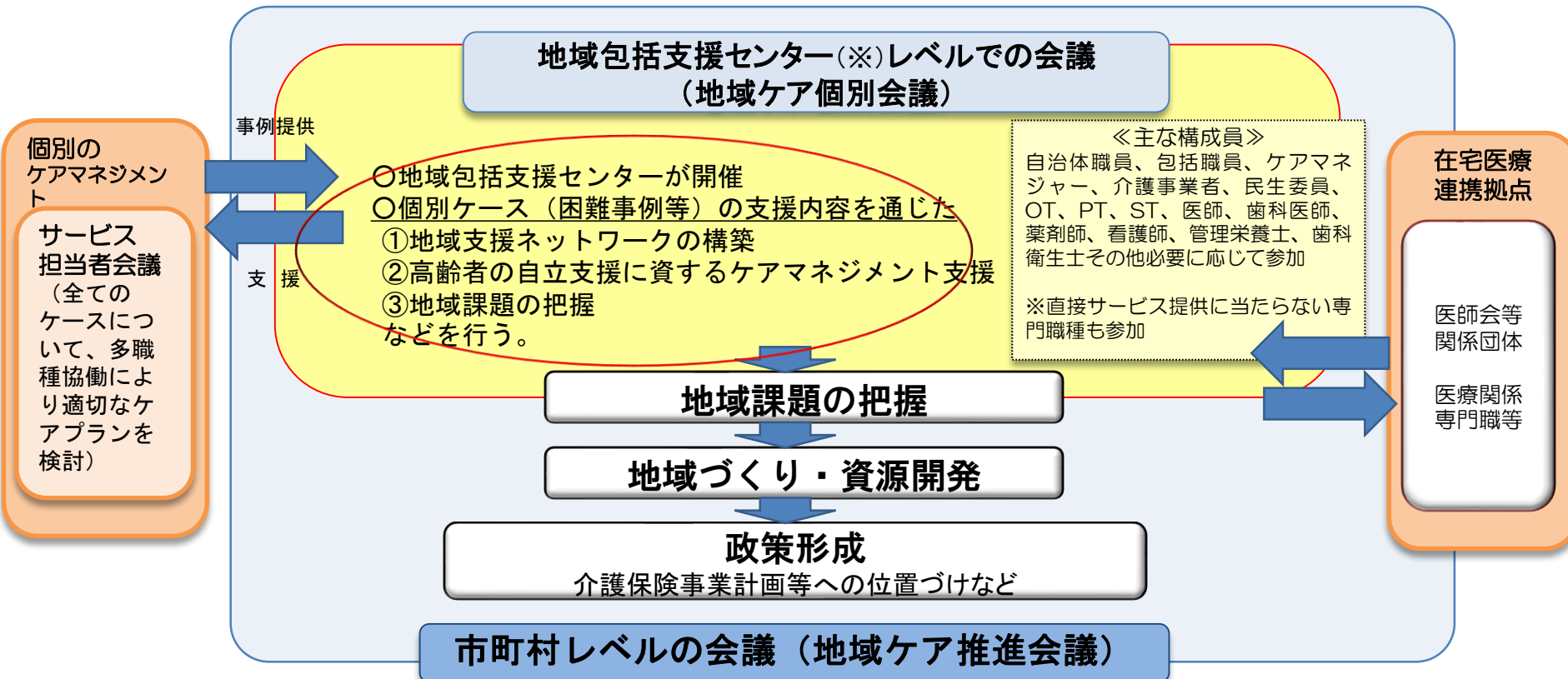


「多職種研修会での顔つなぎ」

地域ケア会議の推進

- 「地域ケア会議」(地域包括支援センター及び市町村レベルの会議)については、地域包括ケアシステムの実現のための有効なツール。
- 具体的には、個別事例の検討を通じて、多職種協働によるケアマネジメント支援を行うとともに、地域のネットワーク構築につなげるなど、実効性あるものとして定着・普及させる。
- 地域ケア会議について、介護保険法で制度的に位置づける。

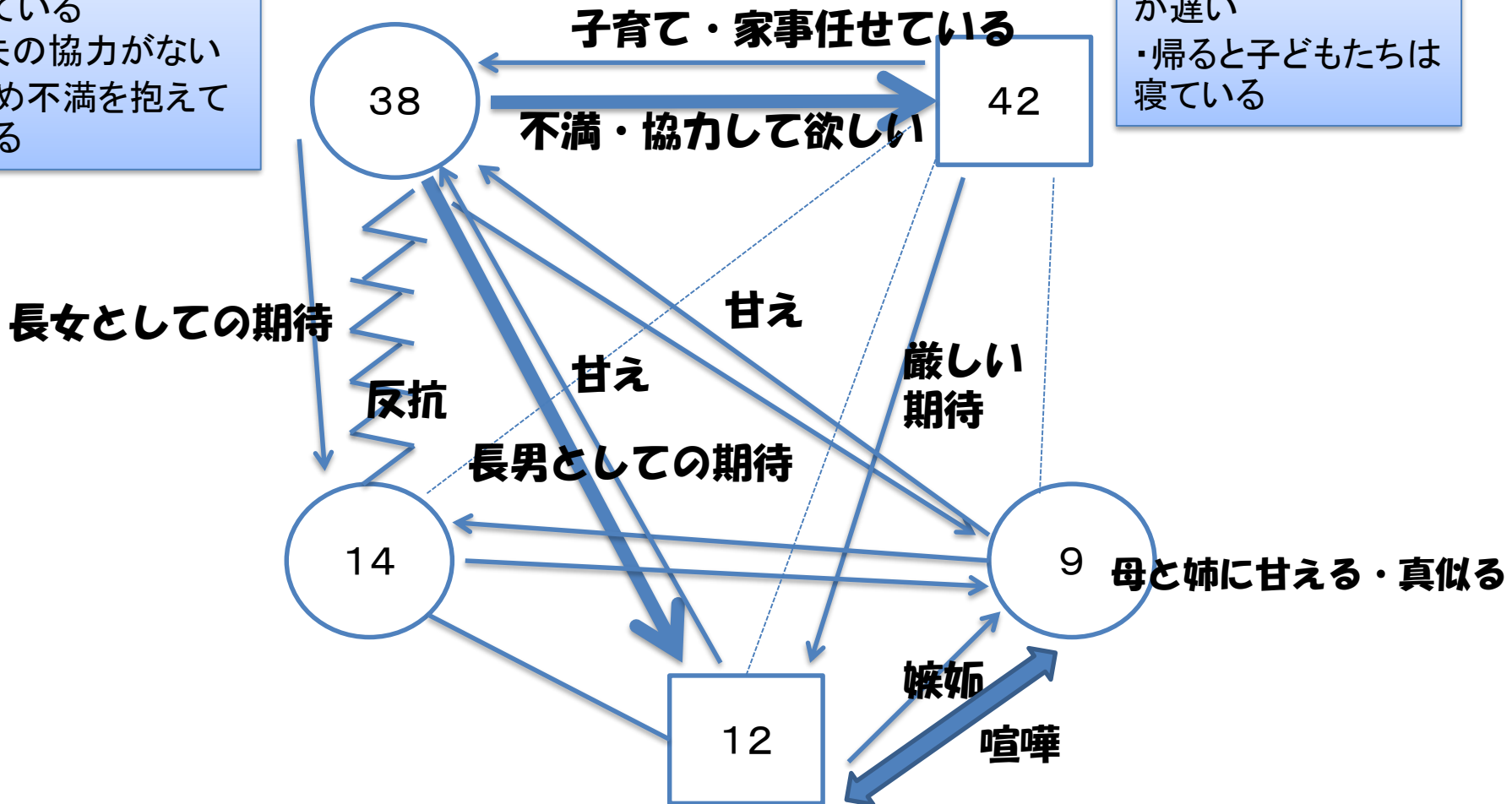
住民が主催する地域ケア会議：埼玉県幸手市，岡山県総領町 等



エコマップ

・一人で子育てをしている
・夫の協力がいないため不満を抱えている

・仕事が忙しく、帰りが遅い
・帰ると子どもたちは寝ている



(ア・イ・ク)

地域の医療・福祉社会資源の把握及び活用

社会資源名簿・社会資源のマップ作成



○地域の実情を把握し、課題抽出を行う。

課題抽出によりアプローチ方法の検討

- 不足している資源やその支援内容を可視化
 - ・連携の方法を検討する。
 - ・利用者や関係者へのアクセスの促進を考える。

(エ・オ・カ)在宅医療・介護連携のための情報共有および相談支援

多職種の力量形成・システム構築のための研究会



<ねらい>

在宅医療、介護の連携の必要性や在宅医療の技法、そして多職種連携方法の具体について知る。

<方法>

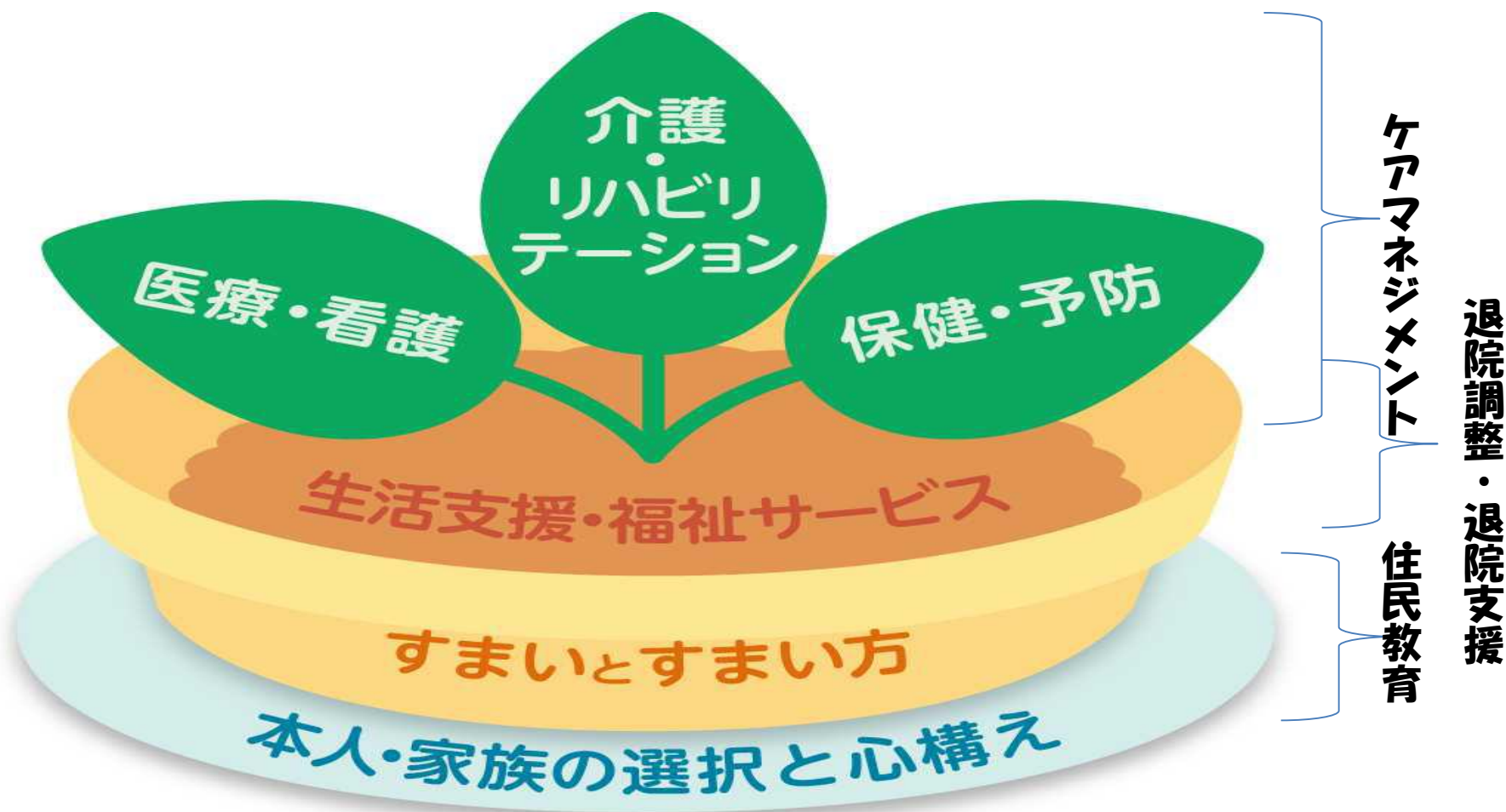
協働で開催し、教育的方法を検討する。

<内容>

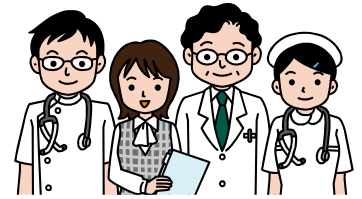
地域での事例検討や連絡体制ツールの作成

※介護職(ケアマネージャー)が医療職に対し、発言できるように配慮する。
。

「地域包括ケアシステム」



在宅医療の体制



退院支援

○入院医療機関と在宅医療に係る機関との協働による退院支援の実施

- ・病院・診療所
- ・訪問看護事業所
- ・薬局
- ・居宅介護支援事業所
- ・地域包括支援センター
- ・県地域在宅医療支援センター
- ・在宅において積極的役割を担う医療機関
- ・在宅に必要な連携を担う拠点 等

日常の療養支援

- 多職種協働による患者や家族の生活を支える観点からの医療の提供
- 緩和ケアの提供
- 家族への支援

病院・診療所、訪問看護事業所、薬局、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、介護老人保健施設、短期入所サービス提供施設、県地域在宅医療支援センター、在宅医療において積極的役割を担う医療機関、在宅医療に必要な連携を担う拠点 等

日常の小言を行ける場所

看取り

○住み慣れた自宅や介護施設等、患者が望む場所での看取りの実施

- ・病院・診療所
- ・訪問看護事業所
- ・薬局
- ・居宅介護支援事業所
- ・地域包括支援センター
- ・県地域在宅医療支援センター
- ・在宅において積極的役割を担う医療機関
- ・在宅に必要な連携を担う拠点 等

困った時の駆け込み場所

急変時の対応

○在宅療養者の病状の急変時や災害時における往診体制及び入院病床の確保

- ・病院・診療所
- ・訪問看護事業所
- ・薬局
- ・在宅において積極的役割を担う医療機関
- ・在宅に必要な連携を担う拠点 等

地域包括ケアとは、 ヘルスケア領域の生活モデル化である



病気でないことと定義
病気を取り除くことが医療の目的

健康とは生活の質の高さ
当事者に健やかな生活が
もたらされることが目標

「猪飼周平 地域包括ケアの社会理論」中野先生作図

(キ)地域住民への普及啓発

1. 目的

超高齢社会において、地域住民自身が自らの終末期までのエンド・オブ・ライフをシュミレーションできる機会を作る

2. 方法

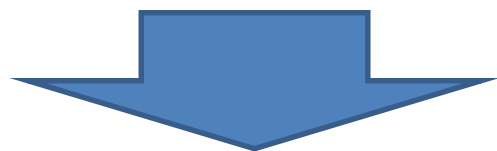
地域での講演会や事例報告会および意見交換会

3. 内容

終末期までどのように生き・生きたいかについて語り合い・・・

認知症症状が出た家族との付き合い方(ユマニティなど対処方法)。

地域保健活動におけるパートナーシップ (幸手モデル)



パートナーシップにより、
専門職が従来の活動の限界を認識し挑戦を望む場合に生じ、
結果として、
専門職の期待を超える個人・相互・コミュニティの
成長
何を学べば良いのかをディスカッションをする。

住民と協働する (地域の資源を増強・開発する)ための 活動のあり方

住民とのパートナーシップの育成

協働関係は、共に活動を行うことで参加者の間に形成。
参加型実践において、それを意図的・効果的に
形成する。

困りごとのなかに、みなさんが欲しい情報があります。
それを丁寧に聞いていただければアセスメントが可能になる